

## ポンド、離脱関連報道に一喜一憂

- ◆離脱合意文書は 13 日にも公表する見通しとの報道も
- ◆ポンド、離脱関連報道に一喜一憂の展開が続くか
- ◆加ドル、下振れリスクが強まっている原油相場が重し

### 予想レンジ

ポンド円 145.80-155.50 円

加ドル円 84.50-89.00 円

### 11 月 12 週の展望

メイ英政府と欧州連合 (EU) が来年 3 月 29 日の離脱に向けて大詰め交渉を続けており、関連ニュースに一喜一憂する相場展開となっている。「合意間近」とか「合意なき離脱が現実味」などの情報が錯綜しているが、最終的には何らかの形でうまく収まるとの楽観的なムードが強く、ポンドは下げ渋っている。ただ、前例のない大イベントへの警戒感は強く、ポンド買いは積極的に進みにくい。

今週も離脱交渉をめぐるニュースが飛び交ったが、英政府や EU から正式なコメントは出ていない。英紙ロンドン・タイムズは、メイ政権が EU 離脱交渉の合意文書を 12 日の閣議で検証し、13 日に公表する見通しだと報じた。英国のラーブ EU 離脱担当相と EU のバルニエ首席交渉官が 13 日に会談し、同日に離脱合意文書を公表するという。また、政治宣言の概要もまとめ、14 日にはメイ首相が議会下院で声明を発表し、その運びとなれば今月の下旬にも臨時の EU 首脳会議が再開される可能性が高いと報じた。ただ、メイ首相と閣僚との間で折り合いがつかず、閣内の方針がまとまっていない。ラーブ EU 離脱担当相とハント外相を中心とした 12 人の閣僚らは離脱日までに EU と将来の通商関係が定まらない場合の安全策 (バックストップ) に関し、英国が関税同盟にとどまる期間についての決定権を持つ仕組みを EU 側に求めるようにメイ首相に訴えた模様。

来週は雇用指標やインフレ関連指標の発表が予定されている。前月に発表された 6-8 月の失業率は 4.0% で横ばいであったが 40 年ぶりの低水準を維持し、平均週間賃金 (賞与除く) は前年比 +3.1% と約 10 年ぶりの大幅な伸びとなった。一方、9 月消費者物価指数 (CPI) は前年比 +2.4% と市場予想を下回り 8 月の +2.7% から鈍化した。賃金の上昇が続くか、CPI は一段と鈍化するか注目。

加国内では注目の経済指標は予定されておらず、加ドルは下振れリスクが強まっている原油相場やドル相場の動きに左右されそう。10 月の新規雇用者数変化は 1 万 1200 人増とほぼ予想通りの結果となり、失業率は 5.8% と予想以上に改善した。10 月 Ivey 購買部協会景気指数は 61.8 と、前月の 50.4 を大きく上回った。NY 原油先物は供給過剰への懸念を背景に 7 日まで 8 日続落した。石油輸出国機構 (OPEC) の関係筋は、相場の重しとなっている供給過剰を回避するために、2019 年に改めて減産に踏み切る可能性があるとして述べた。また、カナダ中銀 (BOC) のポロズ総裁は、追加利上げの必要性を改めて強調した。景気刺激策の終了に伴って長期債利回りが上昇しつつあり、中銀は利回りリスクを再び市場に委ねるようになったと述べた。

### 11 月 5 日週の回顧

英国の EU 離脱交渉合意への期待感からポンドは対ドルで約 3% 上昇。ポンドドルは 10 月中旬以来の高値水準となる 1.31 ドル半ばまで上昇し、ポンド円は 149 円半ばまで強含んだ。加ドルは小動き。米中間選挙を背景にドル売り・円売りが優勢となり、加ドルはじり高も原油相場の大幅下落が重し。ドル/加ドルは 1.31 加ドル台、加ドル円は 86 円台を中心に方向感に限られた。(了)